

# 「ひので」のデータ公開に向けて

JAXA宇宙科学研究本部

「ひので」プロジェクト・マネージャー

常田佐久

# 「ひので」の運営体制

- プロジェクトマネージャ: 中谷一郎先生
- 副マネージャー: 坂尾、清水
- コマネジャー: 常田
- プロジェクトサイエンティスト; 桜井、柴田
- 機器PI=総括責任者
  - SOT: 常田(補佐: 末松)、Tarbell
  - XRT: 柴崎(補佐: 坂尾)、DeLuca
  - EIS: 渡邊、Culhane
- SSC
  - チェア: 渡邊、Davis
  - SOT: 関井、Berger
  - XRT: 柴崎、Golub
  - EIS: 渡邊、Culhane

# 今回の天文学会を終了して

- 「ひので」の初期成果発表として大成功。
  - 次回の学会が重要。
- まだひのでの解析を始めていない方：心配する必要はない。テーマは山ほどある。
  - 初期論文のあとが勝負：詳細論文が重要
  - 落穂ひろいから偉大な発見

# データ公開

- 5月27日データ公開
- 基本的考え方：巨額の費用と多くの人の努力の結晶である「ひので」衛星の成果を最大にする。
  - 研究分野の責任。
  - 将来計画(SOLAR-C)につなげる。
  - コアチームへの配慮。
- 国際的大競争と協力の時代に入る。
  - 日本としてのプレゼンスもあるが、日米英の観測チームとしての配慮も必要。
  - SOTはヨーロッパの動向に注意。

# 論文投稿

- PASJ特集号
  - コンタクト:桜井
- SCIENCE、NATURE
  - SCIENCE編集部と調整を行う。
  - コンタクト:常田
- 著者・謝辞(テンプレートを天文台WEBに用意)
  - 論文の著者は、基本的に、装置チームを共著者に加える。機器ごとにテンプレートを用意する。
  - 謝辞は、共通テンプレートを用意。
- 装置チームとコンタクトして解析
  - 機器情報・ソフトウェアの共有
  - 研究テーマの重なるの確認
- 初期論文(PASJなど)
  - 難しく考えず、見えたものをまとめる。
  - 一方、拙速論文は結局引用されない。
  - ある現象を取りまとめ、世界に報告するメッセンジャーとしての役割の自覚

# 研究テーマの重なり

- 基本的に、早く論文を書いたほうの勝ち。
- 遠慮しないで、テーマが重なっても解析してよい。情報交換が重要。
- 学会講演しても、論文をすぐ書かなければ優先権はない。
- 院生の保護の規定はあるが、当事者は保護などないと思ってやってほしい。

# 観測プロポーザル

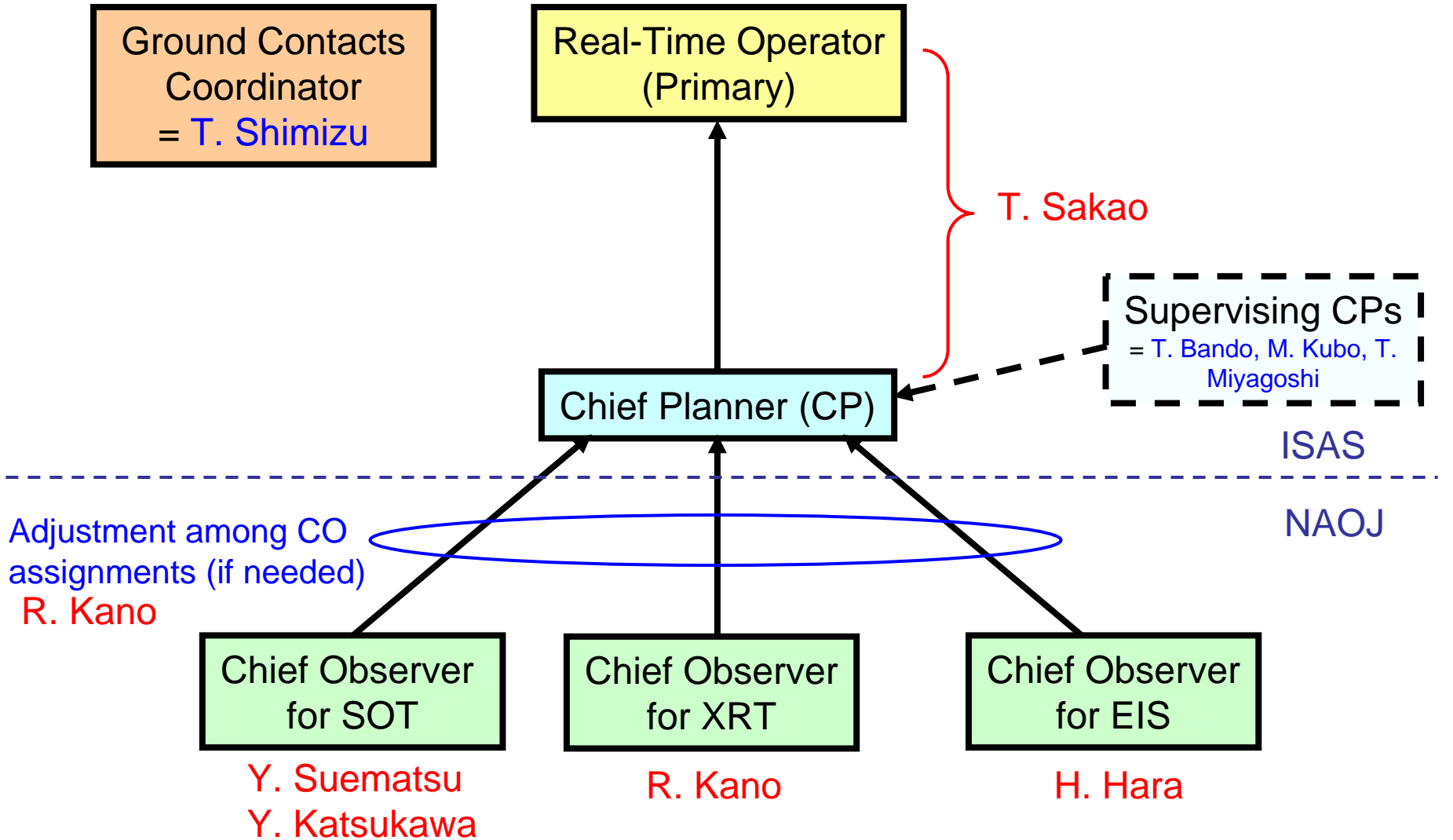
- 現状：観測テーブルのテンプレート化が進み、基本的に同じような観測を繰り返している。
- 解析をしていくと、観測シーケンスの不備に気がつく。抜けがないか？
- 個別機器による観測から、機器間の協調を考えた観測に早く移行したい。
- 取得済みの観測データを解析・評価し、さらに自分のモチベーションを実現するための、改善提案を奨励。
- 提案者にデータの占有権はないが、ある程度尊重は必要。

# 衛星は有限寿命

- 宇宙では、いつ何時なにが起きるか分からないので、毎日最善の観測計画に基づいた運用を行い、サイエンスで取りこぼしのないようにする。
  - SOT:NFIの改善中だが、ある程度制約が残る
  - SOT:青色側でのスループットのわずかな減少(調査中)
  - 5月より8月まで日陰軌道に入る。軌道上で温度サイクル試験をしているようなもの:
    - SOT/OTAの光学系・コンタミネーション
    - XRT/EISの薄膜フィルター
- 衛星の状態は安定してるが、運用や監視に十分注意する必要がある。
  - 安定した当番体制の確立
  - これから活動期に入るため、衛星の成果は長寿命とともに増大する。



# ひので衛星運用体制： 衛星全体～JAXA,望遠鏡～天文台



# 望遠鏡科学運用への貢献を期待

- データ解析を行う方は、望遠鏡の科学運用(チーフオブザーバー)や解析ソフトウェアへの貢献を期待。
- チーフオブザーバーをやると望遠鏡の動きが分かり、以降、効率良く解析を進めることができる。
- 自分の観測計画を提案し、装置チームの了承を得て、実行できる。観測結果をすぐ見て、フィードバックできる。(ただしデータの占有権はない。)
- チーフオブザーバーの第3次訓練は、5-6月以降順次実施するので、参加を奨励。

# 共同観測

- 計画中および実施済の共同観測は外国主導が多い。
- 「ひので」との相補性の高い(地上、宇宙)観測所との共同観測を提案してほしい。